

瓦類ワーキング部会の検討状況

令和 7 年 3 月



1. 令和6年度の瓦類WG部会の検討スケジュール

- 令和6年度、瓦類WG部会における主な検討内容は、下記の通りである。

会議名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
瓦類 工程	赤瓦	赤瓦 本製造													
						搬入									
	雲形飾瓦・宝珠	石膏型製作	成型				本焼成			搬入					
	磚	焼成試験（赤瓦ベース・陶土ベース）													
						製造に向けた検討（材料・品質試験、工程等）									
瓦類WG部会					⑦ 7 / 25					⑧ 12 / 2				2 回	
瓦類WG部会 に係る 調査・監修等							9 / 17監修 雲形飾瓦・ 宝珠の外観 監修								

開催日	会議名等	主な検討内容
7/25	第7回WG部会	- 赤瓦製造・搬入状況 - 磚の製造の方向性など
12/2	第8回WG部会	- 赤瓦、雲形飾瓦製造・搬入状況 - 磚の製造の方向性など
5月予定	第9回WG部会	磚の製造方針など

・ 瓦類の進捗状況は、下表のとおりである。

番号	製作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
1	赤瓦（正殿本体）	令和6年8月頃	軒丸瓦瓦当文様の変更 （軒平瓦瓦当文様の調整）※	国へ引渡し済
2	雲形飾瓦（正殿本体）	令和6年12月頃	高精細古写真及び沖縄県立埋蔵文化財センター 保管遺物をもとに造形を決定	国へ引渡し済
3	磚（正殿基壇、両廊下（一部））	令和8年3月頃	なし（前回踏襲）	令和7年度製造予定
4	赤瓦（両廊下）	令和8年2月頃	軒丸瓦瓦当文様の変更 （軒平瓦瓦当文様の調整）※	令和7年度製造予定

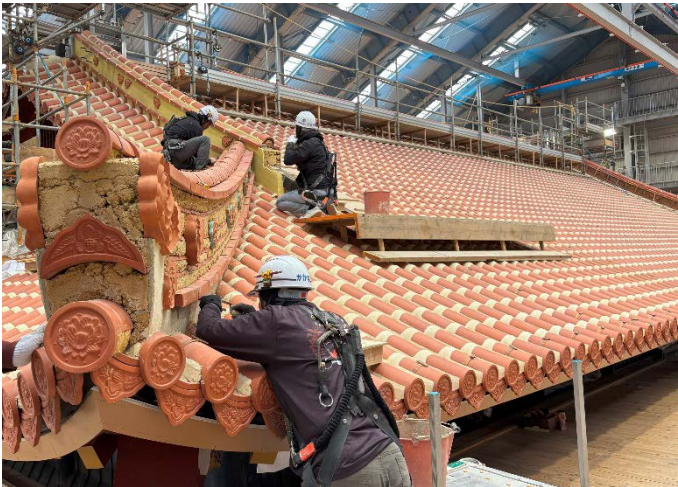
※軒丸瓦および軒平瓦は沖縄県立埋蔵文化財センター保管遺物から具体的な瓦当文様を選定



赤瓦正殿搬入状況(2024.7.15撮影)



雲形飾瓦製造状況(2024.8.16撮影)



赤瓦施工状況(2025.1.29撮影)

今後の予定	R7.1-3	4-6	7-9	10-12	R8.1-	備考
磚	焼成試験(赤瓦ベース)		試験製造	本製造		【試験製造】 特に乾燥時の変形対策 成形後の乾燥要約1.5か月
			原土準備			
		金型検討(必要に応じて)				
赤瓦(両廊下)			原土準備	本製造		成形後の乾燥要約1か月

3. 磚の原土選定および製造方針の検討状況

○平成復元時の磚の仕様及び試作磚の品質にかかる試験結果等を踏まえ、「赤瓦ベース」で原土選定し、
 磚の製造方針(配合・焼成・品質等)は、以下の項目を設定して、具体的な検討を進める。

総合的観点
 での
 選定根拠

- ・ 安全性、景観性の点で期待される品質を確保できると考えられること。
- ・ 過年度に県内瓦工場による製造実績があり、製造にかかる技術的課題が少ないと考えられること。
- ・ 県内公園の園路等で一般的に敷設される琉球石灰岩の石張舗装と同程度の耐摩耗性が確保できれば、公園利用者等への不具合が生じづらいと考えられること。

項目	製造条件
原土配合	原土は「赤瓦ベース」とし、配合比率は、耐摩耗性や耐滑り性、寸法等を踏まえ、決定する。 ・ クチャと赤土の割合は、県内瓦工場で製造される一般製品(磚)を基準とし、配合比率を変えた複数パターンで試験中 ・ 色味の調整のため、酸化鉄の配合についても試験中
焼成設定温度	焼成温度3パターン(1030度、1040度、1050度)で試験中
寸法	242mm(8寸)角、厚さ30mmを基本とする。 大きさのばらつきや反り等の許容値について検討中
曲げ破壊荷重	1,080N以上 (※JIS A 5209:2020参考)
耐摩耗性	県内公園等で一般的に敷設されている琉球石灰岩の石張舗装と同程度の品質であること。
耐滑り性	滑り抵抗係数C.S.R 0.4以上 (※「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」参考)
外観	使用上有害な変形、きず及びき裂並びに焼成むら及び、再利用される磚と比較して色調に著しい不ぞろいがないこと。